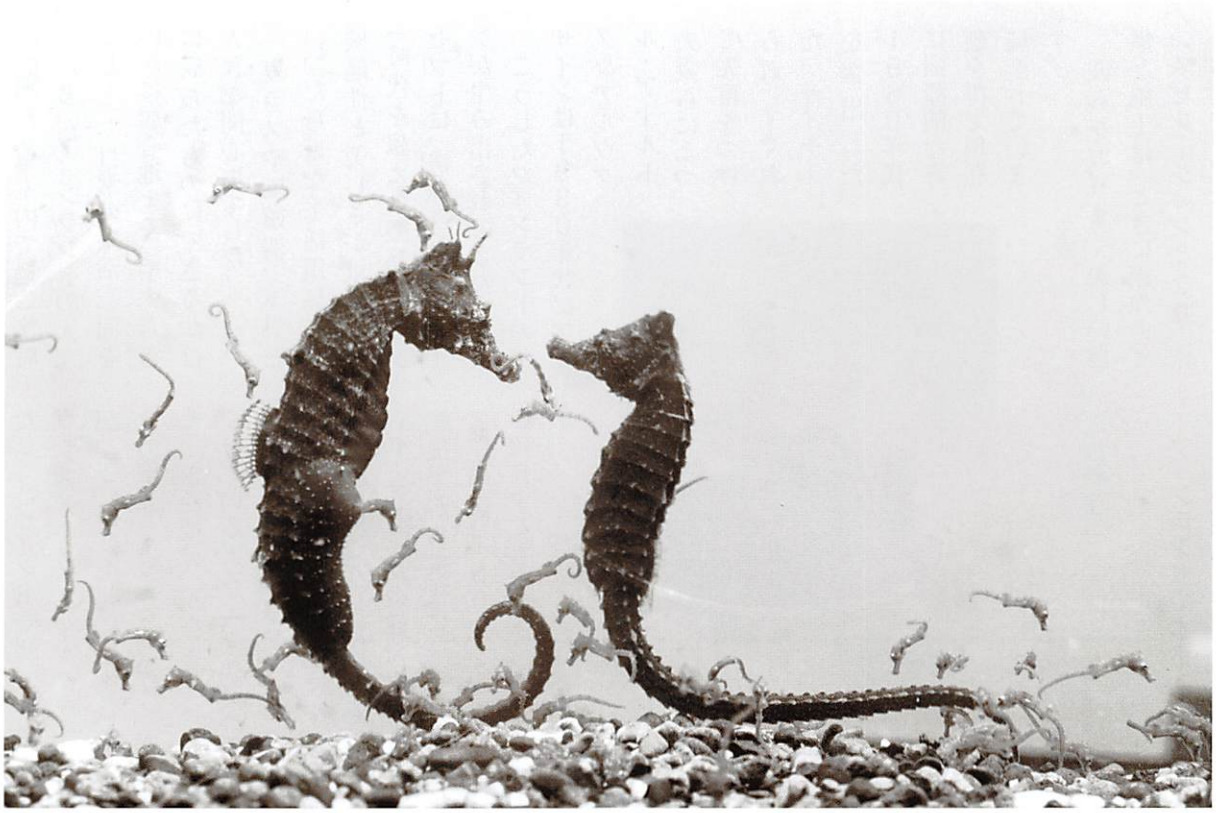
会報
アルテピア
第63号
平成25年9月
一般社団法人 北海道美術館協力会
札幌市中央区北2条西17丁目　TEL・FAX 011－644－4025
http://www.artepia.or.jp



岩合徳光《カメラ動物記：タツノオトシゴの誕生》

1953年　ゼラチン・シルバー・プリント　（北海道立釧路芸術館蔵）

タツノオトシゴは夫婦円満・安産のお守りとして知られているが、その所以は独特な繁殖形態にある。オスが子どもを産むといわれているが、実際にはメスがオスのおなかにある「育児嚢（のう）」という袋に卵を産みつけ、オスが卵を大切に守る。そのため、オスのおなかから子どもが生まれるように見えるのである。

この作品は、まさにその孵化の瞬間をとらえたところである。つがいのタツノオトシゴの周囲には、生まれたばかりの稚魚が泳ぎ回っている。画面左側の大きな個体がオスで、おなかから一匹の稚魚が頭を出している。タツノオトシゴの生態がよくわかる一枚だ。写真集『カメラ動物記』（1959年、地人書館）に収録されている。

撮影した岩合徳光（1915－2007）は、釧路出身の写真家で、日本における動物写真のパイオニアとして知られる。岩合は1951年から10年にわたって在籍していた毎日新聞社の企画で、動物をテーマとする撮影に携わったことがきっかけとなり、動物写真家としての道を歩み始めた。その当時、魚介類の発生に深い関心を抱いていた岩合は、各地の水族館や研究施設に赴き、水槽の前でその様子を撮影するようになった。

本作は、江ノ島水族館で撮影されたものである。海中での撮影が困難であることから、このような手段がとられたが、真横から被写体をクローズアップして撮ることで、タツノオトシゴの孵化の様子を、見る者にわかりやすく、臨場感たっぷりに伝えている。

（北海道立釧路芸術館学芸員　寺地亜衣）

森と湖の国

フィンランド・デザイン

GLASS DESIGN from FINLAND

北海道立近代美術館学芸第一課長　苫名　真

冬の厳しい寒さと短い日照時間のため、室内で過ごす時間が多いフィンランドの人々にとって、日常の生活空間をいかに居心地よく、やすらぎに満ちたものにできるかは大きな関心事でした。

ガラスや陶磁器、家具といった身近な生活用品にも機能性と美しさが求められ、「時代を超えた製品」をコンセプトに、洗練されたデザインが生み出されてきたのです。

こうしたフィンランドのデザインは1930年代にアイノ&アルヴァル・アールト夫妻らによって先鞭をつけられ、すぐれたデザイナーを輩出した1950年代に国際的な評価を得て現在に至っています。

彼らを取りまく美しい自然と風土は、ときに創作のインスピレーションとなり、作品や製品の色となり形となって溶け込んでいきました。フィンランドを代表するガラスメーカー、イッタラ社が「使い捨て主義に反する永遠のデザイン」というメッセージを掲げ、現在も生産を続けているように、その姿勢は常に地球にやさしく、自然とともにあり続けています。

本展は、こうしたフィンランド・デザインの魅力を18世紀後半から現代に至るガラス作品、約150点を中心にご紹介するものです。

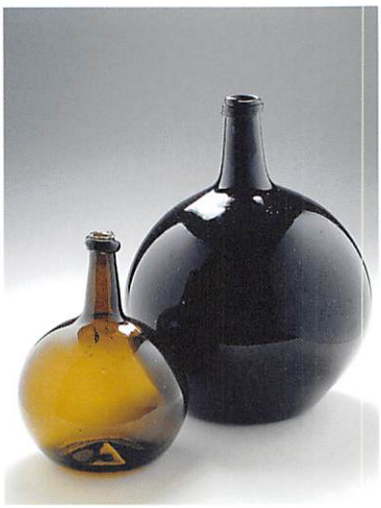


図1 <ボトル>18世紀後期－19世紀初期
（フィンランド国立ガラス美術館蔵）

18世紀後半～1920年代 黎明期

フィンランドで本格的にガラス製造が始まったのは、スウェーデン王国の支配下にあった18世紀半ばのことです。燃料となる森林資源の豊富なフィンランドでスウェーデン市場向けの日用ガラス製品が作られるようになりました（図1）。

1793年にはヌータヤルヴィ社が操業開始。1809年のロシア帝国による併合後、特に1850年代以降にはイッタラ社、カルフラ社、リーヒマキ社など、主要なガラス会社が相次いで設立されました。

1930年代 躍進期

1917年の独立以降、フィンランドのガラス製品はスウェーデンにならい次第に美しさと機能性を兼ね備えたものへ成長していきます。

1930年代に誕生したガラス製品で忘れてならないのは、アイノ&アルヴァル・アールト夫妻による作品群です。なかでも夫のアルヴァルが1936年に発表した《アールトの花瓶》（図2）は翌年のパリ万博にも出品され、その後マイナー・チェンジを重ねながら、今なおイッタラ社の製品として作り続けられている超ロングセラーです。

図2 〈アールトの花瓶9750〉1937年　アルヴァル・アールト
（K. カッコネン氏蔵）

1950年代 黄金期

第二次世界大戦の敗戦は、フィンランドのガラス製造を困難な状況に追い込みました。しかし、この苦境が逆に質の

図3 <タンブラー2744>1954年　カイ・フランク　（フィンランド国立ガラス美術館蔵）

Photos：1、2、3、5　Timo Syrjänen
4　Timo Junttila

高い製品を海外に示そうとする国を挙げての取り組みを呼び、1950年代の黄金期をもたらすことになるのです。

1951年のミラノ・トリエンナーレでイッタラ社のタピオ・ヴィルッカラがグランプリを受賞、54年、57年には同社の若手ティモ・サルパネヴァも続きます。また、ヌータヤルヴィ社のカイ・フランクがデザインした《タンブラー2744》（図3）は、その機能美が認められ、1955年にニューヨーク近代美術館に所蔵されました。

1960・70年代 転換期

1960年代に入ると、エレガントで繊細なスタイルが主流のフィンランド・ガラスに新たな造形が加わります。サルパネヴァによる木型を用いた粗い肌合いの作品や、ポップ・アートのカラフルな感覚を取り入れたヌータヤルヴィ社のオイヴァ・トイッカの作品（図4）がその代表例です。

しかし70年代、全世界を襲ったオイル・ショックはフィンランドのガラスにも大きな打撃を与えました。イッタラ社は色ガラスの生産を中止、リーヒマキ社は手作業によるガラスの製造を打ち切ります。その中でヌータヤルヴィ社は職人技を重視したオブジェの連作を導入。1972年に誕生したトイッカの〈バード〉シリーズはプロダクトとアートの両立というフィンランド・デザインの方向性を示すものとなりました。

図4 <トナカイの集会>1972年　オイヴァ・トイッカ　（フィンランド国立ガラス美術館蔵）

フィンランド・ガラスの今 Art&Life

おもに企業デザイナーに牽引されてきたフィンランドのガラスですが、アメリカに端を発したスタジオ・グラス運動が1980年代にフィンランドにも波及すると個人作家による工房制作がさかんになりました（図5）。

一方、ガラス会社はデザイン性の高いプロダクト製品を継続させ、近年は若手デザイナーとの協働にも取り組んでいます。

ふだんの生活の中で使われる製品であればこそ高品質であること、そして時を超えた優れたデザイン性を有すること—それがフィンランド・デザインを長く支えてきたコンセプトであり、グローバル化の進む市場の中にあって、今後も重要な特徴となっていくことでしょう。

図5 <盆栽>2008年　アルマ・ヤントゥネン
（フィンランド国立ガラス美術館蔵）

GLASS DESIGN from FINLAND
森と湖の国
フィンランド・デザイン
北海道立近代美術館
10月1日（火）～11月24日（日）

かわいい？浮世絵の子どもと動物たち

2013年10月1日(火)～11月24日(日)

北海道立近代美術館　常設展示室2階(1、2室)

本展では、当館のコレクションにより、浮世絵美人画などの脇役として登場する子どもや身近な動物たちに焦点をあてて、絵の細部を楽しく読み解きます。

現代の私たちが用いる「かわいい」の語には様々な意味が含まれていますが、もともと〝かほ、はゆし(顔、映し)〟＝「顔がほてって物をまともに見るに耐えない、痛々しく思う」だったものが、〝かわゆし〟〝かわいい〟と変化してきたものといった意味は派生的に生じたようです。また、近年、とくに若い女性が口にする「かわいい」は好ましいもの全般に対して用いられ、ときにネガティブな形容詞とも結びつくなど、興味関心の対象を包括的に賞賛する言葉として、より広い範囲に多用されています。

と言われています。

多くの人がイメージする「小さくて美しいもの、いたわしくて愛すべきもの」

ところで、浮世絵が大量に生産された江戸時代、美人や役者などの脇役として描かれた子どもや動物は、見る人にどのような感情をもたらしていたのでしょうか。脇役とはいえ、主人公を見事に盛り立て、絵の主題を成立させる重要な要素となった事実は、繰り返し同様のテーマが描かれていることからも確かといえるでしょう。

江戸時代と現代とでは、言葉の意味や用い方、また、子どもや動物のあり様も変化していますが、浮世絵のなかに生き生きと描かれているそのすがたは、物語性を強め、豊かな解釈を可能にし、鑑賞の楽しみを加える興味深いモチーフとして、昔も今も愛されています。

母に寄り添う赤子から大人の世界で働く子どもまで、また、犬や猫などの身近な動物から着物の絵柄に表される多様な生き物まで、浮世絵のなかで息づく子どもと動物のすがたをつぶさに鑑賞することにより、浮世絵の新たな魅力を発見していただければ幸いです。

(北海道立近代美術館学芸員　齊藤　千鶴子)

歌川国芳「山海愛度図絵　はやくねかしたい」　嘉永5(1852)年　当館蔵

歌川国貞「星の霜　当世風俗(手桶美人)」　当館蔵

MUSEUM CALENDAR

2013.9〜2014.3

美術館の特別展覧会ご案内

近代美術館

9	10	11	12	1	2	3
9/6〜9/23 星星會展 日本画の伝統と未来へ	10/1〜11/24 森と湖の国 フィンランド・デザイン		12/7〜1/19 冬のワンダー☆ ミュージアム2014		2/1〜3/23 栗谷川健一展 ー北海道をデザインした男	

TEL 011-644-6883　http://www.aurora-net.or.jp/art/dokinbi/

三岸好太郎美術館

9	10	11	12	1	2	3
~9/8 所蔵品展 第2期 絵からとびだしておいで	9/14〜11/17 特別展 生誕110年記念三岸好太郎展		11/23〜1/19 所蔵品展第3期 好太郎と節子 ー素描するよろこび		1/25〜3/27 所蔵品展第4期 音楽のある美術館5	

TEL 011-644-8901　http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/mkb/

旭川美術館

9	10	11	12	1	2	3
~9/8 奇才・ダリ版画展	改修工事のため休館 9/9〜11/15	11/16〜11/24 創立50周年記念 書創社会員展	11/29〜12/15 創立60周年記念 北海道銀行コレクション	12/21〜2/11 生誕110周年 山口正城展		2/16〜4/6 無言館所蔵作品による 戦没画学生 <生命の絵>展

TEL 0166-25-2577　http://www.dokyoi.pref.hokkaido.jp/hk-asamu/

函館美術館

9	10	11	12	1	2	3
~9/8 ユトリロ展	9/12〜9/18 第54回 北海道書道展函館展 / 9/21〜9/29 第90回記念 赤光社公募美術展	10/5〜11/13 上田桑鳩・金子鷗亭 桑原翠邦 現代書ー北に輝く三巨星	11/23〜1/19 生誕110年 三岸好太郎展		1/29〜4月中旬 ミュージアム・コレクション・スペシャル 道南の美術　現代まで/から 〜新所蔵品を中心に〜	

TEL 0138-56-6311　http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/hbj

帯広美術館

9	10	11	12	1	2	3
	9/7〜11/13 日本のアニメーション美術の創造者 山本二三展 ー天空の城ラピュタ、火垂るの墓、時をかける少女ー		11/22〜2/2 道東アートファイル2013 in the LIGHT /in the SHADOW		2/11〜3/30 帯広美術館コレクション選 十勝の美術100年	

TEL 0155-22-6963　http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/obj

釧路芸術館

9	10	11	12	1	2	3
~9/23 花鳥風月 花と緑の日本画展	10/3〜11/27 開館15周年記念 重要文化財「正行寺」 よみがえった襖絵展		12/6〜2/5 ウルトラマン創世紀展 ーウルトラQ誕生からウルトラマン80へー		2/26〜3/9 文化庁 メディア芸術祭 釧路展	

TEL 0154-23-2381　http://www.kushiro-artmu.jp

札幌芸術の森美術館

9	10	11	12	1	2	3
~9/8 ほっかいどう大マンガ展	9/14〜11/24 高橋コレクション マインドフルネス!		11/30〜2/16 札幌美術展 アクア・ライン一汀の美術ー		2/22〜4/13 R-0 0歳からの げいじゅつのもり	

TEL 011-591-0090　http://sapporo-art-museum.jp/

本郷新記念札幌彫刻美術館

9	10	11	12	1	2	3
~9/8 中橋修展	9/14〜11/17 ハルカヤマ・サテライト			1/18〜5/11 コレクション展　裸婦研究		
	9/10〜4/13　小企画展②　本郷新と春香山					

TEL 011-642-5709　http://www.hongoshin-smos.jp/

平成25年度移動美術館の案内

－道立美術館コレクション－

入場無料

道内各地を巡回する移動美術館が、今年度は奥尻町とせたな町で開催され、
近代美術館・函館美術館・三岸好太郎美術館のコレクションが公開されます。

●9月13日(金)〜9月17日(火)　奥尻町海洋研修センター　TEL01397-2-3890

●9月21日(土)〜9月25日(水)　せたな町民ふれあいプラザ　TEL0137-84-5563

近代美術館

栗谷川健一展
―北海道をデザインした男
平成26年2月1日(土)～3月23日(日)

栗谷川健一(1911―1999)は、戦後の北海道を代表するグラフィック・デザイナーです。岩見沢の開拓農家に生まれ、札幌の看板店の徒弟を振り出しにグラフィックの世界に飛び込みました。戦後に宣伝美術家として独立し、旧国鉄や北海道各地の観光宣伝ポスター、札幌オリンピックや「はまなす国体」など大規模イベントのポスターを手がけます。

彼は風景を雄大に、人々の姿を牧歌的に、あるいは札幌を自然と人が調和した近代都市として、詩情ゆたかに表しました。それらは典型的な北海道の魅力の表現として広く社会に浸透し、今日私たちの身の回りにあるビジュアル・イメージに直接つながっているほどです。

今回の展覧会では、国内外のコンクールで高く評価された代表的なポスターはもちろん、多種多様なパッケージ・デザイン、印刷では再現しきれない色彩の鮮やかさと生き生きした筆づかいを伝える原画やエスキース(習作)などによって、栗谷川健一の創作の全貌を紹介します。

栗谷川健一《夕陽と牧車》
(観光ポスター)　1951年

三岸好太郎美術館

好太郎と節子―素描するよろこび
11月23日(土・祝)～平成26年1月19日(日)

三岸好太郎は線描の画家といわれます。その資質が最もよく表れているのは、素描作品といえるでしょう。本展では素描に注目し、同じく画家として活躍した妻・三岸節子(1905―1999年)の作品も特別に紹介。それらをとおして、油彩では見えにくいこの芸術家夫妻の気取らない素顔や、創造の原点に迫りつつ、両者の個性をさぐります。

好太郎のセンスあふれる線の味わい、そして節子の色彩画家としての本領が遺憾なく発揮された、油彩にも匹敵するような密度の高い描写をお楽しみください。

さらに今回、三岸好太郎が1932(昭和7)年、ロサンゼルス・オリンピック三段跳び金メダリストの南部忠平をモデルに制作した油彩の大作《南部の跳躍》(現在は行方不明)の関連作品とみられる水彩画も初公開いたします。往年の名アスリートと芸術の出会いにもご注目を。

三岸好太郎《スポーツ選手(跳躍)》
1932年　高輪画廊蔵

旭川美術館

生誕110周年　山口正城展
12月21日(土)～平成26年2月11日(火・祝)

山口正城(1903―1959)は旭川に生まれ、戦前、戦後を通じてデザイン教育の場で多くの後進を育てながら活躍した工業デザイナーであり、先駆的な抽象画家です。一般的な知名度はそれほど高くないものの、デザインの世界ではよく知られた存在です。

山口は東京高等工芸学校(現・千葉大学)卒業後、図案教師としてドイツの芸術学校バウハウスの理論を取り入れたデザイン教育をいち早く行い、山城隆一や早川良雄など時代を牽引するデザイナーを育てました。また、自らもさまざまな工業デザインを手がけ、日本のモダンデザイン誕生に尽力したことで評価されています。

一方、画家としては、製図に用いる烏口や簡状の紙を筆代わりに使い、簡潔な直線と墨の滲みによる独自の抽象絵画を発表し注目を集めました。

本展では、日本のデザイン教育の基礎を築き、新しい抽象絵画の可能性を追求した山口正城の世界を幅広く紹介します。生誕110周年を記念するこの機会に、ぜひご覧ください。

山口正城《朝のカノン》1956(昭和31)年

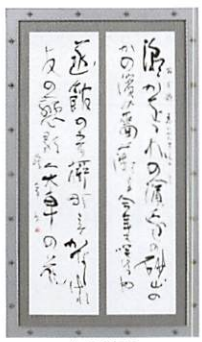
函館美術館

上田桑鳩・金子鷗亭・桑原翠邦
～現代書―北に輝く三巨星～
10月5日(土)～11月13日(水)

現代書の父と称される、比田井天来の門流であった上田桑鳩(1899―1968／兵庫県出身)・桑原翠邦(1906―1995／北海道帯広市出身)・金子鷗亭(1906―2001／北海道松前町出身)の三人は、現代書壇において多大な影響と確かな足跡を残した書家です。いずれも天来の学書法に習い、日中の書の古典を中心に幅広く学びながら、新たな書風や題材を追求して、それぞれ独自の境地を切り開きました。

また、北海道出身である翠邦と鷗亭はむろんのこと、桑鳩も1954(昭和29)年から亡くなる前年の1967(同42)年まで毎年滝川市を訪れるなど、北海道に非常に縁の深い書家であることから、三人の代表作を含む多くの作品が北海道内に残されているのです。

この展覧会では、北海道内にのこる貴重なコレクションから三人の特色ある作品を選定し、三書家の結びつきや歩みを探るとともに、彼らの書表現と活動が現代書に与えた影響を検証しようとするもので、さらに三書家の書風変遷をたどりながら、それぞれの豊かな個性の源泉を探り、その魅力あふれる書芸術の世界に触れてもらおうとするものです。


金子鷗亭
《石川啄木歌二首
潮かをる／函館の》
1981年
北海道立函館美術館蔵

帯広美術館

道東アートファイル2013 in the LIGHT / in the SHADOW
11月22日(金)～平成26年2月2日(日)

帯広美術館がある道東地域では、多くの個性豊かな美術家たちが活躍しています。

細木るみ子(帯広市出身・在住)の作品は、厚手の紙に鉛筆で描かれたもの。細やかな線を丁寧に重ねることで、紙の持つ起伏や光にたゆたう陰影を捉えたような、繊細な画面を生み出しています。

この展覧会では他に、浅川茂(油彩・函館市出身・帯広市在住)、戸張良彦(写真・東京都出身・帯広市在住)、松本早苗(水彩・網走市出身・北見市在住)、藤原千也(木彫・札幌市出身・中札内村在住)、山本雄基(絵画・帯広市出身・札幌市在住)、小笹純弥(写真・福岡市出身・弟子屈町在住)を紹介します。

「光」と「影」をキーワードに、7人の表現世界を浮かび上がらせます。

細木るみ子《光の在処》2010年　作者蔵

釧路芸術館

《文化庁メディア芸術祭 釧路展》
平成26年2月26日(水)～3月9日(日)

東北・北海道では初めてとなる文化庁メディア芸術祭が、釧路芸術館をメイン会場に開催されます。この芸術祭は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供してきたメディア芸術の総合フェスティバル。平成9年度の開催以来、高い芸術性と創造性をもつ優れた作品を数多く紹介してきました。

国立新美術館を会場に今年2月に開催された前年度(第16回)は、海外71の国と地域からの1,502点を含む過去最高の3,503作品の応募があり、部門ごとに大賞、優秀賞、新人賞を贈呈、大きな注目を集める芸術祭へと成長を遂げています。

同芸術祭の地方展は、平成14年度からこれまで13府県で開催。釧路展では第16回受賞作品を中心として、「自然」と「人間」をキーワードに展示・上映作品を選定。今日のメディア芸術の最先端の動向とこれまでの歩みが概括的に紹介されます。映像芸術、自然と芸術、地域と芸術の三つを運営の柱に掲げる釧路芸術館にふさわしい年度末の企画です。

JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL

札幌芸術の森美術館

札幌美術展 アクア・ライン―汀(みぎわ)の美術―
10月30日(土)～平成26年2月16日(日)

流れる。溜まる。波打つ。凪ぐ。―気象や地形に応じて次々と姿を変えていく水は、地や空との間に多彩な「ライン」をつくり出します。本展は、こうした「ライン」をテーマとしつつ、身近な水をめぐる表現の可能性に迫る企画展です。

ゆらめく水影を光によって投影し、空間を大胆に変容してみせる佐々木秀明。沢や支流の古名を頼りに、人工的に河川を支配しようとしてきた近代以降のものとは別の、旧来の水の地図を視覚化しようとする写真の露口啓二。焼尻島に生まれ、海をテーマとした雄渾な書を数多く手がけてきた中野北溟。

加えて、打ち寄せる波を細密に描き、数少ないモチーフで豊かな物語をつくり出す宮川美樹の水彩画や、四季のうつろいを映す湖面を撮り続けた徳丸晋の写真など、異なる表現ジャンルで活躍する14人の作家たちの作品を紹介します。

【出品作家】蒼野甘夏、国松希根太、佐々木秀明、露口啓二、徳丸晋、中野北溟、端聡、前川アキ、前澤良彰、宮川美樹、八木保次、山田恭代美、山田良、吉成翔子

国松希根太《CREVASSE》2011年
撮影・戸張良彦

本郷新記念札幌彫刻美術館

ハルカヤマ・サテライト
9月14日(土)～11月17日(日)

彫刻家・本郷新(札幌生まれ、1905―1980)の旧アトリエが残る小樽市春香町春香山の麓で、9月8日より野外美術展「ハルカヤマ藝術要塞2013」が開催されます。

今年で第2回目となる同展では、本郷新の旧アトリエが立地している敷地まで利用されることになりました。

そこで本郷新記念札幌彫刻美術館では、「ハルカヤマ藝術要塞2013」と連携し、同展参加作家約60名の小品を「ハルカヤマ・サテライト」と題してご紹介いたします。北海道各地で活躍する作家たちの魅力を凝縮した小品は、作家たちの表現や思想を顕著に表す作品となっており、「私を越えて若い藝術家がどんどん生まれて欲しい」と語っていた本郷新の願いを実現するものとなっております。

本郷新ゆかりの二つの地を訪れ、本郷新と彼に続く芸術家たちの時を超えた交流をお楽しみください。また、本郷新の宮の森のアトリエである記念館では、本郷新と春香山の関わりに焦点を当てた小企画展も開催いたしますので合わせてご覧ください。

A·RE·KO·RE information

小柴外一氏 オリジナルアクセサリーのご紹介

近代美術館ミュージアムショップでは、コレクションギャラリー「小柴外一のガラス」展にちなみ小柴氏オリジナルの帯留やネックレスなどを販売しています。

ネックレス「少女の横顔　青」

ネックレス「少女の横顔　赤」

帯留「舞扇」

近美の入館者　1千万人突破!

1977年7月に開館した道立近代美術館の観覧者が、満36年を迎えた7月17日に1千万人に達しました。15時から1階ロビーで記念のセレモニーがおこなわれ、ちょうど1千万人目となった札幌在住の会社員に、高橋館長と当協会の吉野会長から、それぞれ記念品が贈呈されました。また、一千万人目につづく5組の方々にも記念品が贈られました。これからも入館者が増えていくことを願っています。

[三岸好太郎美術館] オリジナル・スイーツ・デー

著名な和・洋菓子店の協力を得て三岸作品にちなんだスイーツを年数回限定発売しています。できばえ、味ともに毎回好評です。喫茶コーナーでコーヒーなどと味わうのもよいでしょう。

7月12日(金)は20回を記念して10回目以降の中から詰め合わせにしたセット(8個／1600円:写真)も販売されこちらも人気でした。

●これからのオリジナル・スイーツ・デー

10月4日(金)　12月6日(金)　2月7日(金)

アート・クラブのご案内

毎回多くの参加者でにぎわう協力会ボランティアによるワークショップ。

●今後の予定

11月2日(土)
10:00～ (募集制)

2月22日(土)
10:00～14:00
(来館者自由)

5月に行われた「サンドペーパーでオリジナルアートをつくろう」

アルテピア・サロン

一枚の絵

佐藤　美紀子

昨今の断捨離ブームとやらで暫くぶりに物入れを整理してみようと思いたちました。久しく出していなかった箱をあけてみると、坂本直行の「五月のムイネシリ」という水彩画が出てきました。三十数年前に私が初めて買った絵です。

その頃私は気の合った山仲間と近郊の山々をはじめ、道内外の山登りを楽しんでいました。たまたま立ち寄った北海道の代表的な山岳画家の展覧会で、私は迷わずにこの無意根山の絵を買い求めました。麓では木々が芽吹き始めているが、頂上はまだ真白な雪に覆われていて、青空の中にどっしりとその特長のある稜線を輝かせている。雪解けの頃になるとこの絵を飾り、待ちわびた春の訪れを喜んだものです。

今はすっかり山登りから遠ざかっていますが、何度も一緒に登った山仲間との思い出と、懐かしい山容にもう一度逢ってみたい思いで久しぶりに壁にかけてみました。

新会員紹介

ご入会ありがとうございます　2013年3月～2013年7月・敬称略

3月

札幌市	藤塚	美恵子
〃	川原	康子
〃	中島	圭子
〃	佐藤	孝代
〃	渡辺	一俊
〃	相馬	秋夫
石狩市	渡辺	頌子
士別市	北口	雄幸
山形市	島崎	利博

4月

札幌市	山本	あかり
〃	福井	和子
〃	田中	俊太朗
〃	工藤	三重子
〃	奥山	篤子
〃	本間	美樹子
〃	片山	友美
〃	奥村	明子
〃	富田	綾子
札幌市	阿保	美由紀
〃	齋藤	保子
〃	山本	節子
〃	関堂	圭子
〃	橋場	清人
〃	岡	栄子
〃	伊木	博子
江別市	大坂	雅博

5月

札幌市	多田	佳世
〃	渕田	美枝子
〃	中村	トク
〃	小川	みゆき
〃	安部	裕美
〃	前川	敏子
〃	川井	姿奈子
〃	設楽	雅代
〃	八田井	恵
〃	山本	百合子
〃	平森	美香
札幌市	福士	幸治
〃	山田	英子
〃	羽鳥	勇
〃	佐藤	昌子
旭川市	二宮	信吾
帯広市	井口	百合香
清水町	台	一泰
〃	台	淑子

6月

札幌市	荒木	英代
〃	大木	美奈子
〃	鈴木	清
〃	吉田	房
〃	岡村	幸枝
〃	岸野	章代
〃	黒木	俊郎
〃	筒井	和子
〃	小野	英之
〃	小野	幸江
〃	中村	和恵
札幌市	岩渕	加奈子
〃	立花	祐一
〃	小池	昭夫

7月

札幌市	青木	みどり
〃	崔	善江
〃	佐藤	久憲
〃	佐々木	吉孝
〃	佐々木	祥子
〃	高崎	裕子
〃	三崎	聡
〃	三崎	千鶴子
〃	安部	昭次
〃	安部	千恵子
〃	芝吹	孝
〃	成田	由紀子
〃	中村	秀恒
〃	中村	陽子
石狩市	相原	淑恵
幕別町	豊島	晃司

法人会員紹介

— ご協力誠にありがとうございます —

サッポロビール(株)北海道本社　北海道銀行　ホテル・ライフォート札幌　中西印刷(株)　(公社)北海道私立幼稚園協会　(公社)北海道国際交流・協力総合センター　(株)南香園　(株)光映堂シーエーブイ　東海大学旭川校舎　北洋ビル管理(株)　(公財)北海道埋蔵文化財センター　北海道文化放送(株)　トップツアー(株)札幌支店　(株)北洋銀行　オンワード樫山福祉共済センター　ノースパシフィック(株)　北洋システム開発(株)　交洋不動産(株)　(株)札幌北洋カード　(株)北海道新聞社　(株)道新文化センター　(株)HBA　(株)どうしん厚別販売センター　(公財)札幌市芸術文化財団　三菱電機(株)北海道支社　(公財)岡田茂吉美術文化財団　(株)三好商会　北洋ビジネスサービス(株)　大丸藤井(株)　日本通運(株)札幌西支店　北栄保険サービス(株)　JR北海道　(株)近畿日本ツーリスト北海道札幌法人旅行支店　札幌通運(株)　岩橋印刷(株)　(株)アミノアップ化学　(医法)元氣会札幌整形外科　都市総合開発(株)

(2013年7月末日現在・敬称略・順不同)

事務局だより

平成25年度 定時総会の報告

去る5月29日、近代美術館講堂において定時総会が開催され、会長の挨拶に続き議案の審議が行われました。
総会終了後は会場を1階ロビーに移して、恒例の「つどい2013」が開催されました。

吉野会長　挨拶要旨

日頃から当協力会の活動をご理解いただき、感謝申し上げます。

昨年は3.11の大震災から2年が経過しましたが、復興も思うように進まないうえ、ヨーロッパの経済や国内の政治も不安定で落ち着かない1年であったと思います。

そのような中でも、当協力会の活動はボランティア活動員の献身的な努力と会員の皆様のご支援に支えられまして、計画した事業はほぼ予定通り終えることができました。一方、会員数の減少などに伴う財政の収支に厳しい状況はいまだに続いているところであります。

今後の在り方につきましては、昨年来検討委員会や理事会等で検討を進めてまいりました。その結果まとまった事項は本日の議案にもなっておりますので、ぜひご承認いただき、着実に実施して行かなければならないと思っております。

当協力会は公益法人制度の改革により平成25年4月1日から一般社団法人に移行しましたので、この機会にいっそう活発な活動を展開していかなければと気持ちを引き締めております。会員の皆様のこれまで以上のご支援、ご協力をお願い申し上げる次第であります。

議案審議等の概要

議案第1号　平成24年度事業報告、収支決算報告について

報告通り承認可決されました。

事業実施状況については、ほぼ、当初の計画通りに進めることができました。(収支決算については表1の通り)

議案第2号　平成25年度事業計画、収支予算案について

原案通り承認可決されました。

事業計画は、基本的に従来から実施している事業がベースとなっております。(収支予算については表2の通り)

議案第3号　一般社団法人北海道美術館協力会定款の一部改正について

原案通り承認可決されました。

変更箇所

- 名誉会員を「削除」
- 会費未納による会員の資格喪失期間を、「2年」から「6か月」に変更
- 総会の決議事項のうち、「監事の解任」を「理事及び監事の解任」に変更
- 総会の議事録署名人を、「理事2名」から「構成会員2名」に変更
- 理事会の職務に、「資産の管理及び運用方法」を追加

議案第4号　会員の会費に関する規程の一部改正について

原案が修正可決されました。

新たに個人の5年会員と協賛会員が設けられ、会員の種別・会費の額は次の通りとなりました。

1	個人会員・毎年納入	10,000円
	・5年一括納入	40,000円(新規)
	・250,000円以上一括払い(終身会員)	
2	法人会員・毎年納入1口	30,000円
3	学生会員・毎年納入	3,000円
4	協賛会員・毎年納入	500,000円以上(新規)

議案第5号　役員の選任について

原案通り承認可決されました。

澤　宣彦氏が辞任し、新たに鎌田　昌市氏が役員に選任されました。

報告事項　一般社団法人への移行について

公益法人制度の改革に伴う新法人への移行について、平成25年3月21日付けで北海道知事から認可を受け、平成25年4月1日に登記を行い、同日付けを以て従来の「社団法人北海道美術館協力会」から「一般社団法人北海道美術館協力会」に移行になりました。

平成25年度(一社)北海道美術館協力会役員名簿

(*新任役員)

会長	吉野　次郎	理事	石黒　勇治	杉本　亙	納谷　信二
副会長	鎌田　昌市*		金井　英明	谷　紘子	藤井　正治
	小林　敬明		腰塚　清一	戸井　敏夫	堀　利幸
	和田　壬三		小砂　憲一	長峯　慰子	山　恒雄
専務理事	藤井　勇吉		菅　伸之	名畑　節子	
監事	金谷　英男				
	山田　勇				

(表1)平成24年度収支決算総括表(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)　(単位:円)

収入の部					支出の部				
科目	合計	一般会計	特別会計		科目	合計	一般会計	特別会計	
			売店会計	駐車場会計				売店会計	駐車場会計
基本財産運用収入	1,504	1,504	0	0	事業費支出	44,854,325	8,712,221	32,258,061	3,884,043
特別収入	1,824	1,824	0	0	管理費支出	5,632,693	5,632,693	0	0
会費収入	9,508,000	9,508,000	0	0	特定資産取得支出	1,824	1,824	0	0
事業収入	36,839,702	1,446,000	31,552,443	3,841,259	他会計への繰入支出	860,284	600,000	0	260,284
寄付金収入	0	0	0	0					
特定資産取崩収入	2,400,000	2,400,000	0	0					
他会計からの繰入収入	860,284	260,284	600,000	0					
雑収入	30,986	30,342	529	115	当期支出合計	51,349,126	14,946,738	32,258,061	4,144,327
当期収入合計	49,642,300	13,647,954	32,152,972	3,841,374	当期収支差額	△1,706,826	△1,298,784	△105,089	△302,953
前期繰越収支差額	1,877,333	1,429,308	145,072	302,953	次期繰越収支差額	170,507	130,524	39,983	0
収入合計(B)	51,519,633	15,077,262	32,298,044	4,144,327	支出合計(B)	51,519,633	15,077,262	32,298,044	4,144,327
予算額(A)	38,611,000	13,352,000	22,146,000	3,113,000	予算額(A)	38,611,000	13,352,000	22,146,000	3,113,000
差異(A-B)	△12,908,633	△1,725,262	△10,152,044	△1,031,327	差異(A-B)	△12,908,633	△1,725,262	△10,152,044	△1,031,327

(表2)平成25年度収支予算総括表(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)　(単位:千円)

区分	収入の部					支出の部				
	科目	予算額	前年度予算額	差異	備考	科目	予算額	前年度予算額	差異	備考
一般会計	基本財産運用収入	10	10	0	定期預金利息	事業費支出	7,165	7,470	△305	
	特別収入	10	10	0	美術振興基金利息	美術活動協力事業費	6,380	6,685	△305	V活動経費、会報・部内報印刷費、会員観賞料等経費
	会費収入	12,383	9,192	3,191	法人、個人会員等年会費					
	事業収入	1,400	1,400	0	美術講座受講料・つどい会費	美術講座等開催事業費	715	715	0	美術講座資料作成費・つどい経費等
	寄付金収入	0	0	0		美術館研修視察事業費	10	10	0	美術研修視察事前研修経費
	雑収入	11	11	0	普通預金利息	美術優秀創作顕彰事業	60	60	0	協力会賞の贈呈経費
	他会計からの繰入収入	1,700	0	1,700		管理費支出	8,005	5,820	2,185	運営管理費
	特定資産取崩収入	0	1,300	△1,300						
	当期収入合計	15,514	11,923	3,591		当期支出合計	15,170	13,290	1,880	
	前期繰越収支差額	130	1,429	△1,299		当期収支差額	344	△1,367	1,711	
	収入合計	15,644	13,352	2,292		次期繰越収支差額	474	62	412	
						支出合計	15,644	13,352	2,292	
特別会計 売店会計	売上収入	25,000	22,000	3,000	売上収入	事業費支出	23,285	22,140	1,145	仕入、賃金、施設賃借料等
	雑収入	1	1	0	預金利息	他会計への繰入支出	1,700	0	1,700	
	当期収入合計	25,001	22,001	3,000		当期支出合計	24,985	22,140	2,845	
						当期収支差額	16	△139	155	
	前期繰越収支差額	39	345	△306		次期繰越収支差額	55	206	△151	
	収入合計	25,040	22,346	2,694		支出合計	25,040	22,346	2,694	
総合計		40,684	35,698	4,986		総合計	40,684	35,698	4,986	

つどい2013

第30回「つどい」が、5月29日の定期総会終了後に近代美術館のロビーで盛大に開催。今年のテーマは、8月に予定のロシアへの美術研修旅行にちなんだ「ロシアとポピュラー音楽の夕べ」。新館長高橋さんの乾杯で宴が始まり、ジャズピアニスト豊口健さんの演奏を楽しみながら、和気あいあいのひとときを過ごしました。

宴たけなわのなか、出席者全員でロシア民謡カチューシャを唄い、フィナーレとなりました。

ミニ・アトリエ「かんたんステンドグラス」ミュージアム・スクール2013

ミュージアム・スクール2013『気分はシャガール!アートな夏休み』のプログラムの一つミニ・アトリエが、7月26日から8月18日まで近美2階ロビーで行われ、親子連れや小中学生らが『かんたんステンドグラス』に挑戦。連日60名を超す盛況ぶり。うすい透明シート(クリアファイル)の表に黒マジックで線を引き、裏面に色マジックをぬるとステンドグラス風シートの出来あがり。

みなさん思い思いの力作をしあげ、満足そうでした。

アルテピアニュース

雨にも負けず春の彫刻清掃

6月14日、雨のなか彫刻清掃が行われました。彫刻友の会、アルテピアボランティア、美術館員など約30名の参加があり、4班に分かれて作業しました。

近美前庭と知事公館庭にある、合わせて5体の彫刻をきれいにしました。彫刻の素材によって清掃方法を変え、細かな点に注意しながら磨きあげました。次回は晴れてほしいですネ!

ぐるっと三館鑑賞ツアー(6月12~15日)

三岸好太郎美術館、知事公館、近代美術館を巡る「ぐるっと三館鑑賞ツアー」が今年もまた新緑の季節に開催されました。参加者は3日間で42名。三岸好太郎美術館では代表作の「道化役者」など多くの作品を鑑賞し、新装したカフェ「きねずみ」でのコーヒータイムには美術館オリジナルのスイーツでひと休み。ひきつづき安田侃、流政之の野外彫刻や歴史ある公館内部を見学ののち近代美術館へと向かいました。開催中の「岩橋英遠ー野生の眼ー」は作家生誕110年の節目の展覧会。参加のみなさんには戦前からの画業の歩みを紹介した壮大な作品の数々を鑑賞していただきました。

編集だより

■猛暑が続いた夏でしたが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしたか。涼風の吹く季節を迎え、よほどの悪天候ではない限り美術館にお出かけになり、アンチエイジングならぬアンチローガン(老眼)を目指して、美術を鑑賞しましょう。

■今号からベテラン編集長Y氏に代わり、新進気鋭の美術家Tさんがその任に当たることになりました。Y氏はそのまま編集部にとどまります。顔ぶれは同じですから、少しずつ新編集長の「色」を出していくことでしょう。ご期待ください。 (M)

ひとくちメモ

映画「ブリューゲルの動く絵」

一昨年公開された映画「ブリューゲルの動く絵」、札幌でも上映されているので見られた方もいるだろう。前半の30分、台詞のない映像はまるで絵を見ているような錯覚におそわれる。作品「十字架を担うキリスト」を題材にCGで再構築、16世紀フランドル地方の庶民の暮らしぶりも忠実に再現され、絵画と映像が一体となった摩訶不思議な世界にひき込まれる。

ピーテル・ブリューゲル(1520年代~69)はネーデルラント(現オランダ、ベルギー)を中心に活動した画家である。油彩画と銅版画の下絵素描を主に制作しており、代表作に「バベルの塔」、「狩人の帰還」などがある。 (上映時間96分 DVDレンタル有)(T)